

第577回 新潟放送番組審議会 議事録

- 議 題

ラジオ番組
「ゆうWAVE」



平成 24 年 5 月 29 日

BSN新潟放送

第577回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成24年5月29日(火)午前11:00~

2. 開催場所 BSN本社 6階会議室

3. 委員の出席

委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	松川公敏	委員	高井盛雄
委員	古賀豊	委員	齋藤俊太郎
委員	小島良子	委員	行形貴子

(書面)

委員側欠席者(敬称略・順不同)

副委員長	相羽利子	委員	渡辺隆
委員	佐々木広介	委員	正道かほる

新潟放送側出席者

社長	竹石松次	常務	熊倉雄三
編成局長	野島常雄	報道制作局長	梅津雅之
営業局長	島田好久	ラジオセンター長	
			小原弘志
説明員	ラジオセンター	プロデューサー	丹羽崇

事務局

社長室長	佐藤隆夫(事務局長)
考査広報部長	野上信子(事務局員)

4. 議題

1. 報告事項

6月の新番組・単発番組について(各局長)

4. 審議事項

ラジオ番組「ゆうWAVE」

月~金 午後3時00分~午後5時30分

~番組審議委員の主な意見・質問~

スナッピー中継で、わが街津川の「狐の嫁入り」をとりあげてもらいうれしかった。今回、自分は狐メイクをして中継現場(会場)にいたし、その時の放送をあらためて聴いてみて、今までとちがうラジオの楽しみ方がわかった。自分の地元の中継車が来てくれて、リポーターと直接話しができる。ぐっと親近感がわいて

ファンが増える。ラジオはピンポイントで確実にファン作りができる媒体であると感じた。毎日県内各地に出かけて行くのは大変だと思うが、ぜひ続けてほしい。県外からイベントを見学に来た観光客に、山田リポーターが、「雨の中ありがとうございます」と地域の人として話しかけていた。心遣いに好感がもてた。山田リポーターの中継は、地名や川の名前ほか、土地の細かい情報が豊富ではっきり伝えてくれるので、ながらで聴いていてもわかりやすかった。番組はリスナーと時間を共有する作りになっていて楽しく聴いた。FMなどにくらべると趣向が凝らされて内容も多彩。テレビと比較して効果が見えづらいが、力が入っている番組と感じた。石塚かおりアナと田巻直子アナ。声のトーンもリズムも全くちがうスタイルの2人だが、個性と魅力が十分発揮されていた。「Nスタイル通信」は、「新潟の魅力の世界に発信」と言っている割には内容が提供スポンサーのPRに終始した。むずかしい面もあると思うが企画に一考を。「ゆう WAVE ニュース解説」は、ストレートニュースとちがって掘り下げて聴かせてくれるので良い。プロゴルファー若林舞子さんの4年ぶりの優勝というタイムリーで明るい話題であった。ふるさとのラジオ局のインタビューに、若林選手が安心して答えている感じが伝わり好感がもてた。

【制作者のコメント】

番組作りで最も大事にしているのが「タイムリー」であること。鮮度とも表裏一体。しかしタイムリーにはリスクもともなう。昨晚考えたことを翌朝否定しなければならないことがある。そこを常にスクラップ&ビルドをしながら番組を構成したいと思っている。今回お聴きいただいた「ゆう WAVE ニュース解説」で紹介した若林選手のインタビューも、当日までどうなるか分からなかった。結果 10 分間だけ時間をとってもらい歩きながらのインタビューだった。常に綱渡りではあるが「旬」のものを当事者の方に直接話をしてもらうことを大事にしている。これには報道との連携はかせない。ラジオ・テレビ兼営局の力をラジオに生かし、事件・事故にも対応したい。スナッピー中継で、こちらから積極的に県内各地を走ってタイムリーな話題・イベントなどや地域での取組みなど紹介させてもらっている。今後も継続したい。「Nスタイル通信」この4月からスタートしたコーナー。時にコンセプトから離れてしまうこともあるが、他のコーナーとのつながりを保ちながら育てていきたい。